

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成24年12月8日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200034-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成25年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、一人ひとりの思いや要望は何かと職員が関心を払い把握することに努めており、利用者様の視点に立ってスタッフ間で話し合い、意見を出し合っている。利用者様からも意見を言いやすい雰囲気作りをしている。ご家族や面会者にも心のこもったあいさつを心がけ、ご家族の意見、要望にも耳を傾け、協力関係の下、アットホームな苑をめざしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の3事業所が同地域に隣接している。住み慣れた地域との関わりを大切にして、自治会に加入し、地域で企画されたひまわり一杯運動、保育園の資源回収、小学校の登下校の見守り隊に協力している。家族に年1回ケア・外出・接遇などについてアンケートを行い、意見や要望を聞いて、職員と話し合い、事業所の質の向上に取り組んでいる。かかりつけ医・協力医と事業者が中心となって連携を図り重度化、終末期の支援も行える体制を構築している。家族に代わり医療受診や利用者、家族から孫の結婚式や法事へ出席したいとの相談があり職員と一緒に出席するなど利用者本位の支援を心掛けている。急な外出などにも臨機応変に対応している。事業所・家族・本人・職員と一体となり、希望する暮らしとなるように工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の前に施設理念の唱和を必ず行い、職員間で共有し職員の心得を常に念頭におき、日々のケアの中にかせるよう努力している。	法人の理念を軸に、地域に即した事業所の理念となるように職員と話し合っている。常に利用者の安全を第一に考えながら、住み慣れた地域との関わりを大切にされたケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の公共施設の行事や保育園児の来苑による行事に参加するなどして交流できるよう取り組んでいるまた近辺の喫茶店に出向いたり周辺を散歩するなど地域と関わりながら暮らせるよう努めている。	自治会に加入し情報を得ながら、地域で企画されたひまわり一杯運動・保育園の資源回収・小学生の登下校の見守り隊に協力している。近隣の公共施設の行事の参加や幼稚園児の訪問、運動会に参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後のご利用者様・ご家族や面会者や地域の方に対して、認知症介護の支援方法などアドバイスやサービスの利用についての情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、近隣事業所合同で会議を行っている。会の後半は事業所毎に分かれ参加メンバーの率直な意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	3事業所合同で開催し、後半は事業所毎に別れてメンバーが入り意見交換をしている。居室の温度・男性便器の設置・外出など意見が出され検討をしている。緊急時に情報が提供できるように利用者の顔写真や身体状況表など一覧表を作成した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議やケアマネ会議、書類提出時など、日頃より取り組みの状況や利用者様の状況を伝えながら協力関係を築いていっている。	市を訪問した時や書類提出時に担当者に挨拶している。ヒヤリアクシデント報告や利用者の状況報告を行い協力関係が築けるように努めている。家族から国体の見学はできないかと要望があり市担当者より情報を得た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃の生活の中で、4点柵の廃止、長時間車椅子に座らせっぱなし等がないようにしている。玄関の施錠については午後から開放し、散歩や洗濯物を一緒に取り込んでいただく等抑圧感のない暮らしに配慮している。	事業所として、身体拘束をしない方針を職員に周知して、計画的に研修を行っている。外部評価の意見を受け、玄関の施錠について職員と話し合いを行い1時間の開錠から始め、今では午後から開錠している。	管理者、職員とも身体拘束の弊害について理解をしている。今後も、身体拘束廃止について話し合いを続けることで、少しでも長い時間、玄関が開錠できるように取り組んで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会を行い、また自己のケアを振り返るためケアのチェックリストを実施した。管理者は日頃より虐待についての注意を払っている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。実際に成年後見人が必要なケースは発生していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除の際はご本人やご家族に不安が生じないようにそれぞれの立場に立って説明させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑された時には必ず、言葉がけをし、ご様子を伝えたり、アンケートを実施し率直な意見・要望をきかせてもらってその後のケアにいかせるよう努めている。	訪問時に、日頃の様子を伝えている。また、お茶を出すなどゆっくり過ごせるように配慮している。年1回ケア、外出、接遇のアンケートを行い意見や要望を聞いている。時には便りや電話で個別に聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場や個人面接で職員の意見を聞いたり日頃からコミュニケーションを図るようにして意見を言いやすい環境作りを心がけている。	月1回の全体会議を行い、職員より加湿器や離床センサーの購入の要望があり、本部に報告している。管理者は、年2回の個人面接を行い、職場の悩みや異動の希望を聞いて働きやすい職場となるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い取得後の本人の意向を確認しながら向上心を持って、働く環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にケアの自己チェックを行い面談する中でひとりひとりの力量の把握に努めている。法人内外の研修は受講できるよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間の交流を実施してリーダーとしての質を高めあったり、合同勉強会を実施してサービスを向上させる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において今までの家族関係や生活歴、病歴を把握するよう努めている。またご本人の不安や要望に耳を傾けて入所後の生活ケアに活かせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの経緯やこれまでのご家族のご苦勞に敬意を表し、ご家族が求めているものを話し合い、理解し信頼関係が築けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設として今、何ができることか伝え、ご本人・ご家族は今、どんな支援を必要としているかを話し合い、出来ることへの支援や対応を状況に応じ相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係や考え方にとられず、共に過ごし支えあうような関係作りに努めている。共に暮らす中で苦しみや不安・喜びを理解し声掛けできるようにする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や日頃の状況を詳しく伝え、ご家族との情報共有に努めている。利用者様本人にとってもご家族の支えは重要不可欠であるため、協力・信頼関係が築けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設になかなかお越しいただけないご家族にもイベントの写真や毎月の手紙などで状況の報告を行っている。	馴染みの関係が途切れない支援を家族に説明し、「本人らしく暮らしていただくための情報シート」を基に情報を得ている。事業所を来訪した友人や俳句の会の方などに話をして関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が関わり合えるよう席の配慮をしたり、お互いの生活に負担や心理的圧迫を感じさせることのないよう各利用者様の精神状態や行動に気配りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり契約が終了となっても再びご利用をいただける旨を伝え、退所と同時に再入所を申し込んでいただくこともできると説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で各々利用者様の思いや要望を確認し把握するよう心がけている。コミュニケーションがうまくとれない方にはご家族から情報を得たり、表情や行動から思いを汲み取るよう努めている。	「ご本人らしく暮らしていただくための情報シート」を活用して、暮らし方の希望、意向を把握している。困難な場合は、一つ一つのケアを確認することを心掛け、表情や行動から思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の思いや今までの生活スタイルや習慣などをじっくり傾聴し、日々の生活に出来る限り取り入れていけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック施行にて体調と心理状態を把握できるよう、詳細に記録しより良いケアができるよう努めながら、個々のペースやご希望を優先している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族との関わりの中で職員全体で利用者様の日常生活の様子、ADLの変化に関する意見を出し合い、充実した生活を送っていただけるように介護計画を作成している。	センター方式を活用して情報を収集し、家族や医師の意見を聞き介護計画を作成している。日常的に職員間で意見を出し必要に応じて計画を見直している。ケアプラン年間表を作成し職員の意見を引き出しやすいように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で申し送り、介護記録や日々のケアの中で気づいたことや発見したことを詳細に記録し、ケアカンファや状況に応じてはその都度話し合い、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望・相談などにも臨機応変に対応し、通院や送迎などの必要な支援にも柔軟に対応個々の満足度を高めるよう努めている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や地域の保育園・小学校・中学校の様々な関わり合いの中で、地域住民の一員として暮らしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、ご家族へ協力期間について説明し希望を確認している。かかりつけ医以外での受診や通院もご本人やご家族の希望に応じて対応している。通院介助も行っており、様子や変化をご家族に伝えるようにしている。	本人や家族の希望から、かかりつけ医を受診している。かかりつけ医や専門医の受診、緊急の受診、薬の変更があった場合は、職員から協力医に報告している。職員が受診を代行した場合は、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調や表情の変化を見逃さないよう状態変化に注意し早期発見に努め、看護師に報告し適切な医療に繋げている。看護師不在時は介護記録や電話対応にて他施設の看護師が対応し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にかかりつけ医や看護師から医療機関に情報提供すると共に出来る限り、毎日見舞うようにしている。長期入院になることでご本人やご家族に負担とならないよう回復状況等の情報交換を家族や病院関係者で行い早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設の方針について説明し、早い時期からご本人やご家族の意向を把握するよう努めている。	契約時に事業所の方針を説明し、急変時の対応希望書や急変時における同意書を取り交わしている。介護教育マニュアルに基づき緊急時の職員教育を行っている。看取りについて、協力医と連携を整えている。現在、看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し、設置している。また、救命士による蘇生訓練も実施指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署員による火災、避難訓練の実施や消火器や避難経路の確保等設備点検も行っている。	避難訓練・夜間想定訓練を計画的に実施している。0メートル地帯であり避難場所として近隣病院と話し合い協力体制を築いている。運営推進会議の後に訓練を行うなど地域の協力が得られるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う気持ちを大切に、個々の性格を把握し、声かけのタイミングや声のトーンなどに注意を払いながらケアに努めている	職員は、言葉のかけ方や態度など馴れ馴れしくならないよう自己評価を行い見直している。居室の中から施錠する場合は、本人の意思の表出と考え居室への出入りを配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で利用者様の話される内容から何を望んでおられるのかを汲み取り、ご本人の思いを引き出せるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や天候に合わせて散歩などができるように援助している。コミュニケーションの取れない利用者様には生活暦を知り、生活に身近な部分でのお手伝いなどをお願いしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域的美容院より定期的に来苑してもらい、利用者様の好みの髪型にしている。着替えは生活にリズムと張りをもたらすので、好きな色や柄を選んでもらい、清潔で安全に配慮した安心、信頼してもらえるイメージのものを選んでもらえるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備をお手伝いしていただくのは、難しい点があるが食事は一緒にテーブルを囲んでいる。食べたいメニューを定期的にお聞きして献立の参考にしている。片付けに関してはお膳拭きやおしぼりの準備などをしてもらっている。	献立は、担当職員が利用者の好みを聞きながら、栄養のバランスと色取りを考慮しユニットごとで作っている。仲の良い方が同席になるように配慮し、職員と一緒に食事しながら介助し、和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	慢性疾患を抱えておられる方や長年の食習慣の違いなどもあるが、体重減少や皮膚の色や張りなどもチェックしながら、目で見え楽しめる食事の提供を心がけている。口渇を感じづらくするため、積極的に飲水をお勧めしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内には多数の細菌が常在していることを踏まえ毎食後、歯磨きを実施、義歯は外し歯ブラシで清掃。歯のない方の口腔ケアはデンタルフロスを使用し爽快感を味わってもらっている。義歯などの状況によっては歯科医に往診して見てもらっている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な排尿誘導や刺激による排尿誘発と環境調整を行っている。併せて精神的苦痛、不安の軽減にも考慮している。	本人に合わせた排泄時間とリズムを把握し声かけを行いトイレに誘導している。自立排泄の難しい利用者には、腹部マッサージを行うことや水の音を聞くことでリラックスして自然に排泄できるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便習慣の確立、繊維性食品、水分補給の援助、腹部マッサージ、温罌法などを行いかつ適度な運動、寝たきりの方には体位変換や座位になる時間を作っている。緩下剤や座薬、摘便などにより排便コントロールする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴するまでの声掛けとタイミングに心がけ、その方のペースに合わせ、ゆったりとした時間をもっていただくように支援する。併せて羞恥心にも配慮する。	身体的状況に応じ一般の浴槽又は機械浴で対応をしている。入浴時間、一番風呂、介助を望まれない方には一人での入浴など要望を聞いている。入浴を望まない方には声かけの工夫や足浴など行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や体力を把握し、天気の良い日には日光浴を兼ねて散歩をしたり、夜間に影響のない程度の午睡をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に薬の内容が印刷されており、説明書となっており、いつでも職員が確認することができる。利用者様の状況に応じ確実に内服していただくよう支援している。副作用や注意事項に関してはNSがユニットのノートに記載し申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月ごとの創作レクや個々の能力に応じた塗り絵やパズルを提供し、お話を傾聴し利用者様がやりたいこと、望んでいることなどを見つけて楽しみに繋げるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調や天候、季節により、近隣への散歩や喫茶店にでかけることができるよう支援を行っている。	近隣施設の行事に外出ボランティアの協力を得て、車椅子の方も一緒に参加している。家族と一緒に花見や買物を計画している。孫の結婚式や法事に出席させたいと家族から要望があった場合は、職員が一緒に出掛けている。落ち着かない時など個別に外出など支援をしている。	

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安を感じないように、ご家族と自己管理能力を踏まえて話し合いを行ったが該当者なし。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に応じた暑中しがきや年賀状が届くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなどには季節の移り変わりがわかるようにしている。やさしい光が差し込むデザインとなっており落ち着きを感じられるよう工夫されている。トイレも使用後清潔にし、不快感を取り除くよう工夫している。	正月用の飾りを利用者と一緒に考え季節感を醸し出すように工夫している。採光には、利用者の好みでブラインドを開け閉めし対応している。掘りごたつがあり、レクリエーションや休養に利用することで家庭的な雰囲気となるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がリビング内のソファや玄関に設置してある椅子を利用して思い思いに寛いでいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用されていた馴染みのあるものを持ち寄って見慣れたものに囲まれることで心の安定につなげている。	居室の入口には手作りの門松を飾っている。家族との写真や好みの小物を置き、洗面台には剃刀や歯ブラシがある。ベッド柵について、行政より指導があり、話し合っただけで柵などに布カバーを付けたが、周りを見渡すことができない。	福祉用具の事故に対する緊急処置として早急に対応している。しかし、ベッドより周りを見渡すことが出来ないため、閉塞感がある。再度、全職員で利用者の立場に立った工夫を期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の残存能力の状態を把握し、歩行範囲や車椅子での動線確保など安全にかつ自由に動いていただけるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成24年12月8日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200034-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で施設理念の唱和を必ず行っている。職員間で共有し日々のケアの中で活かせるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の公共施設の行事や保育園児の来苑による行事に参加するなどして交流できるよう取り組んでいる。また、近隣の喫茶店に出向いたり周辺を散歩するなど地域と関わりながら暮らせるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後のご利用者様・ご家族や面会者や地域の方に対して、認知症介護の支援方法などアドバイスやサービスの利用についての情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、近隣事業所合同で会議を行っている。会の後半は事業所毎に分かれ参加メンバーの率直な意見をいただき、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議やケアマネ会議、書類提出時等、日頃より取り組みの状況や利用者様の状況を伝えながら、協力関係を築いていっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃の生活の中で、4点柵の廃止、長時間車椅子に乗車させる等がないようにしている。玄関の施錠については午後から開放し、散歩や洗濯物を一緒に取り込んでいただく等、抑圧感のない暮らしに配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について勉強会を行い、また自己のケアを振り返るためケアチェックリストを実施した。管理者は日頃より虐待についての注意を払っている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。実際に成年後見人が必要なケースは発生していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除の際はご本人やご家族に不安が生じないよう、それぞれの立場に立って説明させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑された時には必ず、言葉がけをし、ご様子を伝えたり、アンケートを実施し率直な意見・要望を聞かせてもらいその後のケアに活かせるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場や個人面談で職員の意見をきいたり、日頃からコミュニケーションを図るようにして意見を言いやすい環境作りを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い取得後の本人の意向を確認しながら、向上心を持って働く環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にケアの自己チェックを行い、面談の中でひとりひとりの力量の把握に努めている。法人内外の研修は受講できるよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者間の交流を実施してリーダーとしての質を高めあったり、合同勉強会を実施してサービスを向上させる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において今までの家族関係や生活歴、病歴を把握するよう努めている。またご本人の不安や要望に耳を傾けて入所後の生活ケアに活かせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの経緯やこれまでのご家族のご苦勞に敬意を表し、ご家族が求めているものを話し合い理解し、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設として今、何ができることかを伝えご本人・ご家族は今どんな支援を必要としているかを話し合い、出来ることへの支援や対応を状況に応じ相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族と離れて暮らす不安、住み慣れた自宅と違った環境で生活することの寂しさに共感する姿勢、傾聴を念頭におき、利用者様が不安なく過ごしていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の今までのご苦勞や思いに寄り添いながら、面会時には生活状況を細かく伝え、情報を共有することでご家族と共にご本人を支えていける関係を築よう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの友人・知人との継続的な交流ができるよう支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者様同士で散歩や喫茶店・日光浴などの場面作りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり契約が終了となっても再びご利用をいただける旨を伝え、退所と同時に再入所を申し込んでいただくこともできると説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で各利用者様の思いや要望を確認し把握するよう心がけている。コミュニケーションがうまくとれない方にはご家族から情報を得たり、表情や行動から思いを汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の思いや今までの生活スタイルや習慣などをじっくり傾聴し、日々の生活に出来る限り取り入れていけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック施行にて体調と心理状態を把握できるよう、詳細に記録し、より良いケアがでるよう努めながら、個々のペースやご希望を優先している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族との関わりの中で職員全体で利用者様の日常生活の様子、ADLの変化に関する意見を出し合い、充実した生活を送っていただけるように介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で申し送り、介護記録や日々のケアの中で気づいたことや発見したことを詳細に記録し、ケアカンファや状況に応じてその都度、話し合いケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望・相談などにも臨機応変に対応し、通院や送迎などの必要な支援にも柔軟に対応個々の満足度を高めるよう努めている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や地域の保育園・小学校・中学校の様々な関わり合いの中で、地域住民の一員として暮らしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、ご家族へ協力期間について説明し希望を確認している。かかりつけ医以外での受診や通院もご本人やご家族の希望に応じて対応している。通院介助も行っており、様子や変化をご家族に伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調や表情の変化を見逃さないよう状態変化に注意し早期発見に努め、看護師に報告し適切な医療に繋げている。看護師不在時は介護記録や電話対応にて他施設の看護師が対応し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にかかりつけ医や看護師から医療機関に情報提供すると共に出来る限り毎日、見舞うようにしている。長期入院になることでご本人やご家族に負担とならないよう回復状況等の情報交換を家族や病院関係者で行い早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設の方心について説明し、早い時期からご本人やご家族の意向を把握するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し、設置している。また、救命士による蘇生訓練も実施指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署員による火災、避難訓練の実施や消火器や非難経路の確保等、設備点検もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを念頭におき、ご本人の思いを大切にし状況に応じたケアや声かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の様子を見守り、表情、動きなどを注意深く観察し声かけをし、お話を傾聴する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や様子を見ながら、作業・レク・入浴などの声かけを行い、希望があればそれに添うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容支援を行っている。ご本人による衣服やパジャマの選択、季節に応じた衣類の整備、地域の美容師さんへの依頼を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食事形態、介助方法を行っている。盛り付けにも配慮し視覚的にも食欲が出るよう工夫している。和やかな雰囲気作り心がけ、出来る方には下膳やおしぼりたたみなどもしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量は常時、チェックし状況に応じ声かけ、介助している。食事形態の見直し、嗜好に合わせた飲料水の提供をし、水分摂取の回数を増やすなど個々に合った摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。義歯装着の方はその都度外して洗浄する。個々の能力に応じて見守り、介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導やその方の排泄パターンを把握し極力、トイレでの排泄が可能となるよう支援してる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や果物など繊維質の食材をなるべく多く提供させていただき、水分補給の援助、腹部・腰部マッサージを施行。運動不足の方には散歩やリビング内での歩行も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のタイミングに合わせ声掛けを行う。湯温などにも配慮し、各利用者様のADLに合わせ、シャワー浴・リフト浴・機械浴など安全を最優先し支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境調整や就眠の援助、身体的苦痛の除去や夕方から夜にかけて穏やかな気持ちでいられるよう日中は活動的に生活リズムを整えるよう利用者同士、心地よく交流がもてるよう調整役をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師からの申し送り、薬事情報、薬ノートなどでスタッフ全員が個々の利用者の情報を把握し、服薬時はトリプルチェックを行い、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折り、洗濯物たたみ、花壇の水遣りなど個々の能力に応じ意欲を引き出すような声かけを行っている。また、両ユニット合同でレクを行い他者との交流ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただくための外出、希望をお聞きし地域の方々に協力していただき、喜んでいただけるような外出支援を行っている。日常的には状況に応じて近隣の散歩を促し、ご家族にも外出依頼をしている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点では個別及び施設でのお金の所持、お預かりは行っていない。利用者様が不安なく生活できるようご本人・ご家族とも相談しながら力量に応じ対応させていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望により、はがきや手紙などがご家族などに届くよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの飾りつけは生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えている。やさしい光が入るようデザインとなっている。トイレも清潔にし不快感を取り除くように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子で過ごされる時は仲の良い利用者同士が寛げるスペースである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や人形といった馴染みの品や思い出の品々が持ち込まれ、利用者様の居心地のよさに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の残存能力を把握し、ご本人の不安材料を取り除き自立支援に繋げるよう、安全な動線確保をするよう工夫している。		